

ミツバアケビ *Akebia trifoliata* (Thunb.) Koidz.

アケビ科 Lardizabalaceae

1. 利用可能部位：地表茎（蔓）および空中茎の先端に長く伸びた当年枝。

2. 組織形態：

茎（蔓）の構造はアケビと全く同じである。茎の横断面はやや角張った丸～丸形で、20数本程度の一次維管束が同心円状に並ぶ（C）。維管束は丸形で上半分（背軸側）は一次篩部、下半分が一次木部で、多数の原生木部～後生木部の道管がある。一次木部は半円形と言うよりも原生木部を扇状とする扇形で、やや角張った後生木部道管が3～6本ほどある（D、E）。表皮は薄く、クチクラも薄い（E）。下表皮は特に発達することはない（E）。皮層の内側には丸い一次維管束の外形に沿ってアーチ状の繊維組織がある（C～E）。

3. 利用例：アケビと全く同じように使われ、編みカゴなど多数ある。

4. 遺跡出土遺物：

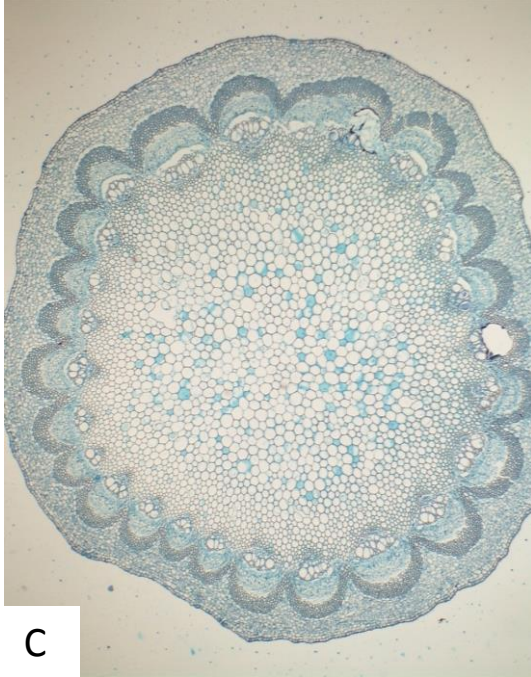
（工事中）



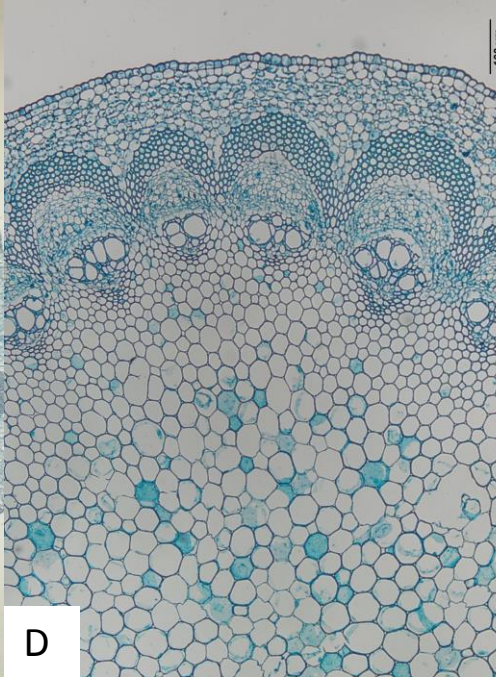
A



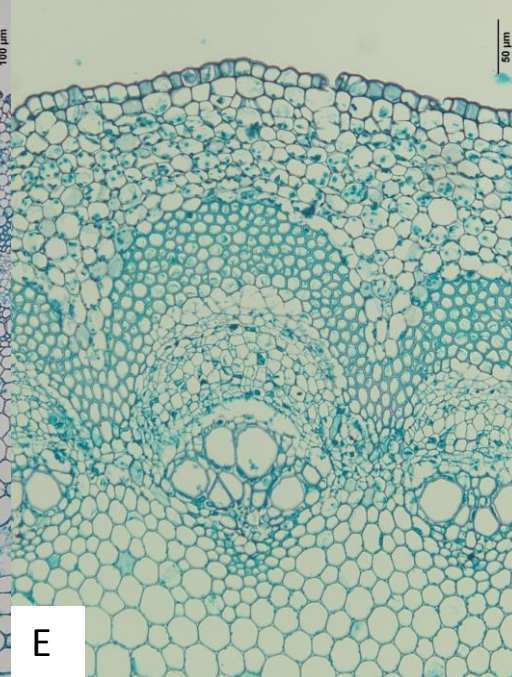
B



C



D



E

A:アケビの地上を這う地表茎と伸び出した空中茎。地表茎では、鱗片状の葉の葉腋(節)のところから不定根を出し、また空中茎を延ばす。
 B:収穫された地表茎。地表茎は柔軟で、横枝と節からでた根を切りはずして利用する。C:伸長中の当年枝の横断面。外形はやや角張った円形。一輪の同心円状に並んだ一次維管束は25本ある。D:当年枝の横断面の拡大。丸い維管束の外側にアーチ状の繊維組織が発達する。一次木部は原生木部～後生木部で10本程度の道管がある。E:当年枝の表皮、皮層、維管束の拡大。二次組織は未だ形成されていない。表皮は1細胞層で、クチクラは薄い。下表皮は発達していない。